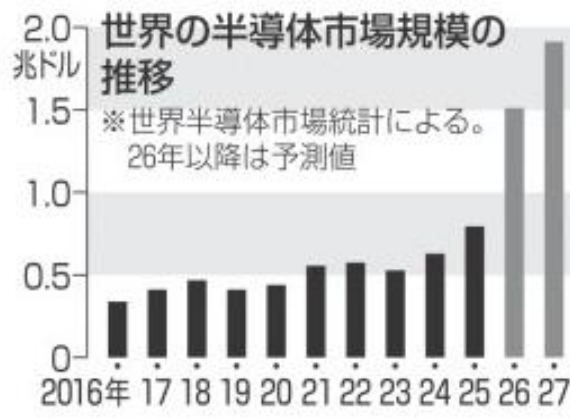


世界の半導体26年1.9倍へ

AIで過去最高、日本は1.3倍

主要半導体メーカーでつくる世界半導体市場統計(WSTS)は2日、2026年の市場規模が前年比89.9%増の1兆5112億ドル(約241兆円)になるとの予測を発表した。人工知能(AI)向けの需要が急拡大しており、各国企業による巨額投資を追い風に過去最高を更新する。ただ成長は米国とアジア太平洋地域が主導し、日本は27.6%増と見劣り。AI競争に勝ち抜くため各国が半導体確保を急ぐ中、取り残される恐れがある。

(7面に関連記事)



昨年12月時点の予測は26.3%増の9754億ドルだった。データセンタの普及が想定を上回るペースで進んでいることを踏まえ、大幅に上方修正した。伸び率も過去最高。半導体業界は好不況の波にさらされてきたが、AIの普及を支えるに右肩上がりとなる可能性が出てきた。同時にバブルへの警戒も高まりそうだ。製品別では、データを記憶するメモリー半導体が約3.5倍の8039億ドルと急増。サムスン電子など韓国勢や、日本ではキオクシアホールディングスが手がける。AIの「頭脳」に当たるロジック半導体は37.3%増の4113億ドルと予測した。米エヌビディアが圧倒的な世界シェアを占め、台湾積体回路製造(TSMC)がエヌビディアの委託を受け製造している。

地域別では、米国中心の市場向けが約2.1倍の5436億ドルと伸び率が最も高い。アジア太平洋地域は87.4%増の8239億ドルで、中国の伸びにも勢いがある。これに対し、日本は27.6%増の570億ドル。25年の実績はマイナス成長に沈んでおり、プラスに転換するものの欧州(58.4%増)にも届かない。熊本県に進出したTSMCや、北海道千歳市で27年度に量産を始めるラピダスにより国内の生産体制の強化は進むため、AIの積極活用も喫緊の課題となりそうだ。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 世界の半導体市場の規模が大幅に伸びているのは、どんな需要が急拡大しているからですか。
[]需要

2 2025年の半導体の市場規模について、[]にあてはまる数字を計算して書きましょう。

・世界の2026年の半導体市場規模は前年比89.9%増の1兆5112億ドルになると予測されている。
ということは世界の2025年の半導体市場規模は約[①]億ドルであった。

・日本の2026年の半導体市場規模は前年比27.6%増の570億ドルになると予測されている。
ということは日本の2025年の半導体市場規模は約[②]億ドルであった。

3 2の結果および地域別の数字から、日本の他の国・地域に比べてAIの活用は
進んでいるといえる 進んでいるとはいえない [どちらかを○で囲みましょう]

4 2027年には世界の半導体の市場規模は、10年前に比べて約何倍になると予測されていますか。
グラフから読み取ってみましょう。

約[]倍

